[1]

テストの平均正答率 生活や意識で違い

神奈川県横浜市の調査

神奈川県横浜市の教育委員会は、四月下旬、横浜市立小学校に通う二年生から六年生約十五万七千人を対象に、「学習状況調査」をおこないました。子どもたちの学習のようすをつかんで教室での指導に生かすねらいです。こうした調査は初めてだといいます。

調査内容は、教科学習状況調査、生活・学習意識調査の二種類です。教科学習状況調査は、二年生から四年生は国語と算数。五、六年生は国語、算数、社会、理科でペーパーテスト形式です。

生活・学習意識調査はアンケート形式で実施。生活意識調査の質問項目は「学校に行く前に朝食をとりますか」「学校の勉強以外に、一日にだいたいどれくらい勉強しますか」など、七つから八つありました。

ペーパーテストの正答率と生活に関する意識の関係を調べたところ、「学校に行く前にかならず朝食をとる」という児童の平均正答率（問題に正しく答えられた率）は、各学年で六五・五パーセント（%）をこえました。一方、「まったく、またはほとんどとらない」と答えた児童の平均正答率は、五年生で五〇%、六年生で五一・九%と低くなりました。

「あなたは、毎日何時間ぐらいねむりますか」では、「七時間から八時間」という児童の平均正答率が五、六年生とも六五・五%以上、「六時間より少ない」では、五年生で四六・四%と、約二〇ポイントの差が出ました。

五、六年生だけの質問、「これまでに何かを一生懸命にしたことがありますか」で、「たくさんあった」とした児童の平均正答率はどちらも六六%以上。「まったくなかった」という児童は、五年生で約四二%、六年生で約五一%でした。

横浜市教育委員会は「規則正しい生活習慣や、何かに一生懸命取り組んだ経験が、学習にもよい影響をあたえることがうかがえる」と分析しています。

[2]

規則正しい生活が第一歩／できることから始めよう

朝小の連載「小学生学力アップ術」でおなじみの親野智可等さんは、二十三年間、小学校で子どもたちを指導してきました。その経験から、テストで確実に得点している子は早寝、早起きの習慣があり、朝食をきちんと食べているといいます。「日ごろの生活習慣が、学習面にも引きつがれているのでしょう。規則正しい生活習慣は学力向上の第一歩です」

聖路加看護大学非常勤講師の岩辺京子先生は、十分な睡眠は記憶を整理させる効果があるといいます。「朝起きると脳の栄養はからっぽになっています。朝食に脳の栄養、ぶどう糖のもととなるおにぎりやパンなどの炭水化物をとることが大切。朝食を食べると体温が上がり体がめざめるので、一時間目の授業でも集中力をたもつことができます」

岩辺先生は「家庭の事情で『早寝、早起き、朝ごはん』がむずかしい人もいます。そういった家庭では、できそうなことから始めていくといいですね。たとえば、まず寝る時間を決めるなど、小さなことのつみ重ねが大切です」。

[3]

おうちの人にも協力を呼びかけ

山口県山陽小野田市

山口県山陽小野田市の教育委員会は、四月から「生活改善・学力向上プロジェクト」をスタート。その取り組みのひとつとして、五月下旬、市内の全小学生を対象に、学力検査（一年生以外）、知能発達検査、生活調査をおこないました。

その結果、「朝食を毎日食べない」「十二時すぎにねる」という児童より、「朝食を毎日食べる」「八時から九時までにねる」という児童のほうが知能指数が高い傾向にあることがわかりました。また、テレビを見る時間と知能発達の関係についても調べたところ、「一時間まで」としている児童の知能指数の平均は一〇二以上、「五時間をこす」児童は九六より少なくなりました。

山陽小野田市では、規則正しい生活習慣にはおうちの人の協力も必要と考え、各家庭に「早寝、早起き、朝ごはん」をよびかけています。

朝小 2006.10.6